

## 学長のコラム

### 流域型洪水、越水破堤、バックウォーター

10月12日夜に伊豆半島に上陸し、翌13日に関東地方を縦断し福島県沖に達した台風19号は、広範囲に甚大な被害をもたらし、死者・行方不明者はそれぞれ79名と110名(10/19現在)に及んだ。犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。

一昨年7月の九州北部豪雨、昨年7月の西日本豪雨に続き、年々災害の規模が増大している様に思える。今回の浸水面積は2万ヘクタール以上となり、昨年の西日本豪雨を上回ったという。地球温暖化による海水温の上昇が台風19号の巨大化を引き起こしたと言われているが、温暖化が様々なメカニズムで異常気象の誘因となっていることは確かである。今回の浸水被害は「流域型洪水」が特徴とされる。この2日間で平年の数ヶ月分の雨が降った地域もあり、多くの河川で許容最大流量を越え、堤防から溢れた水が流域に洪水を引き起こした。さらに、堤防を越えた水が外側から堤防を侵食破戒し、「越水破堤」という現象を起こしたものと想定されている。その結果、千曲川や阿武隈川などの一級河川をはじめとして71河川の128カ所で決壊し、265の河川で氾濫がおこった(10/18現在)とのことである。さらに本流の水位が上昇したため支流の流れが遮られて「バックウォーター」という逆流現象がおこり、支流を含めて広汎な洪水が引き起こされた。災害が繰り返される度に、このような耳新しい災害用語が報道されること自体が、自然災害レベルの新しいステージへの突入を裏付けるものと捉えることが出来る。

台風19号の接近に際しては気象庁から頻回の警報が発出されていたが、想定を越える広域被害が生じ、一朝一夕の対応では不十分なことが露呈した。日頃からの防災・減災の意識向上と訓練が如何に重要かを改めて知らされる結果であった。因みに本学の東側を流れる井芹川の「洪水ハザードマップ」を見ると、本学キャンパスは幸い浸水想定区域にはなっていないが、北側に隣接する農地の一部が0.5m未満から2mまでの浸水想定区域となっている。想定を越える大雨の際には本学キャンパスが浸水する可能性も否定できない。因みに私の自宅は北西側に健軍川が流れている。幸い我が家は浸水想定区域外であったが、想定を越える事態も十分に考慮すべだと考えている。皆さんの自宅についても、是非「洪水ハザードマップ」を確認していただき、緊急時の対応を考えて欲しい。本年5月19日には国土交通省九州地方整備局、熊本県および熊本市主催による「総合水防演習2019」が白川河川敷で行われ(5月の学長コラム参照)、本学学生有志も訓練に参加した(写真)。来る11月20日には地震を想定した学内防災訓練が実施される。訓練時間中に学内に滞在するすべての教職員、学生等が対象になっており、特段の業務のある者を除き全員の参加をお願いしたい。備えあれば憂いなし!



### 10月・11月・12月の主な行事予定

10/26(土)	PT臨床実習教育者会議(PT2・PT3) 2019年度初年次教育実践交流会 in 九州(崇城大学) 地域連携/ふれあいフェスタ in ほくぶ(～10/27)
10/28(月)	帰国報告会(国際交流) 共同研究講座開設記念講演会
10/30(水)	医学検査学科 臨地実習認定式
11/2(土)	学部リハ社会人入試、助産別科推薦入試、 大学院推薦選抜・社会人選抜(I期)入試
11/3(日)	フードパルフェスタ2019(～11/4)
11/6(水)	第8回国際シンポジウム 開催国:タイ(～11/8)
11/8(金)	インフルエンザワクチン接種
11/9(土)	看護学科同窓会30周年記念講演会
11/10(日)	井芹川大清掃
11/13(水)	公衆衛生看護実習IIA・III・IIB指導者会議
11/16(土)	指定校推薦入試・一般推薦入試
11/19(火)	インフルエンザワクチン接種
11/20(水)	防災訓練
11/21(木)	定期健康診断(教職員)
11/24(日)	子どものための心理的応急処置1日研修
11/27(水)	银杏学園 理事会
12/3(火)	リハビリテーション教育評価機構実地調査(ST)
12/7(土)	助産別科一般入試、入門実習指導者会議(ST1)
12/8(日)	チャレンジ熊本大!一般入試対策講座
12/9(月)	賞与支給式(予定)
12/13(金)	リハビリテーション教育評価機構実地調査(OT)
12/14(土)	看護学科臨時実習合同研修会(看護)
12/20(金)	リハビリテーション教育評価機構実地調査(PT) 学校法人银杏学園忘年会(ホテル日航熊本)
12/26(木)	仕事納め式
12/27(金)-1/5(日)	まで年末年始休暇となります。

### 第45回熊本県私立大学協会親善ボウリング大会

9月21日(土)に、毎年恒例の私大協ボウリング大会に参加し、崎元理事長が始球式をされました。結果は、9大学中6位という結果でしたが、ボウリングやその後の懇親会を通じて、他大学の教職員の方々との親睦も大変深まりました。表彰式では、本学参加者7名中1名が当日賞(個人成績21位)を、また1名が本学としては3年連続となるBB賞の表彰を受けました。来年は更なる躍進を目指したいと思います。(文責：総務課)



### 令和元年度 第1回ハラスメント防止研修会

9月19日(木)にハラスメント防止研修会を開催し、84名の教職員が参加されました。職場でのパワハラ対策が企業に義務付けられたこともあり、今回は「ハラスメントの法改正と対応について」というテーマで、パワハラやハラスメントの定義や今後事業主が講ずべき措置等に関する内容も盛り込んで、社会保険労務士の中嶋博之先生にご講演いただきました。

内容を変えて年度内にもう一度研修会を開催する予定です。是非、そちらもご参加ください。(文責：ハラスメント防止委員会事務局)



## 2-3 年次保護者会

9月28日(土)、本学にて2年生・3年生を対象とした保護者会を開催いたしました(2年生 理学療法学専攻・言語聴覚学専攻, 3年生 医学検査学科・生活機能療法学専攻)。その主たる目的は、学生本人が長期の学外実習をより有意義なものにするため、保護者の皆さまと大学教職員が協力してサポートしていく会であること。さらに、今後の国家試験・就職活動を成功裏に導くためのスタートの日にすることです。

当日は、本学50周年記念館にて、学生生活における防犯等に関する講演会、崎元理事長による大学概要の説明、各学科専攻に分かれての分科会、個別面談などが行われました。週末にもかかわらず、ご参加いただきありがとうございました。(文責: 就職支援課)



## リハビリテーション学科合同就職説明会

9月20日(金)新アリーナにてリハビリテーション学科の合同就職説明会を開催いたしました。その主たる目的は、施設情報を把握するとともに、自分の職業観を再確認し、進路決定の一助とするものです。当日は82施設(県内37施設, 県外45施設)の医療施設の皆さまにお集まりいただき、各施設の業務内容や教育体制、採用情報などについてご説明いただきました。4年生はいよいよ就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得のいく就職活動ができることを期待しています。

(文責: 就職支援課)



## 第1回FDセミナー

9月19日(木)に第1回FDセミナーを開催しました。「キャンパス内における多様性への配慮ー異文化コミュニケーションの観点から考えるー」と題して、福岡女学院大学人文学部教授の池田理知子先生にご講演いただきました。わかりやすい異(合理的配慮を求めて来る学生)からわかりにくい異(合理的配慮を求めては来ないが本来は配慮が必要な学生)が増えるという社会変化の中では現場の教職員に対応が求められるため、個々人が社会の動きに敏感になることや、失敗から学び感性を磨くことの大切さを実例を交えて分かりやすくお話いただきました。

このセミナーが今後の本学のFD活動に役立つことを祈念するとともに、本セミナーに参加いただいた教職員の皆様にお礼を申し上げます。

(文責: FD推進委員長)



## 熊本保健科学大学先端研究セミナー(4回シリーズ)

第1回 日時: 2019年9月30日(月) 16:20~18:00

演題: 古くて新しい疾患予防・治療法: Physical Medicineの研究 講師: 甲斐広文 教授

第2回 日時: 2019年10月24日(木) 16:20~18:00

演題: ウイルス感染症治療薬研究の最前線 講師: 三隅将吾 教授

第3回 日時: 2019年11月7日(木) 16:20~18:00

演題: アミロイドMRI~AD発症前検出と予防のために~ 講師: 米田哲也 准教授

第4回 日時: 2019年12月12日(木) 16:20~18:00

演題: iPS細胞から腎臓を創る 講師: 西中村隆一 教授  
※皆様ご所属は熊本大学になります。(文責: 企画課)

## 私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 生活機能療法学専攻の吉田 真理子 専攻長に投稿していただきました。

小学4年生の頃、私はサッカー少女でした。といっても、昼休みと放課後にクラスの仲間と校庭でボールを蹴るだけの、遊びのサッカーです。集まった人数が奇数でも2グループに分かれて対戦していました。審判はおらず得点も適当で、試合とは程遠いものですが、雨が降らなければ毎日ボールを追いかけ走り回っていました。

当時、自分は、相手のドリブルを止めてボールを奪うのが上手だと思っていました。今思うと、私の勢いに相手が怯えてミスしていただけたことですが。

澤穂希さんが活躍する数十年前の話なので、子供のサッカークラブなどはありませんでした。現在のような環境だったら、将来は「なでしこジャパン」などという勘違いをして、途中で挫折し、人生の迷路にはまっていたかもしれません。

5年生のクラス替えでサッカー仲間はバラバラになり、それと同時に、私は憑き物が落ちたかのようにサッカーを全くしなくなりました。その後、作業療法士となり現在に至ります。

